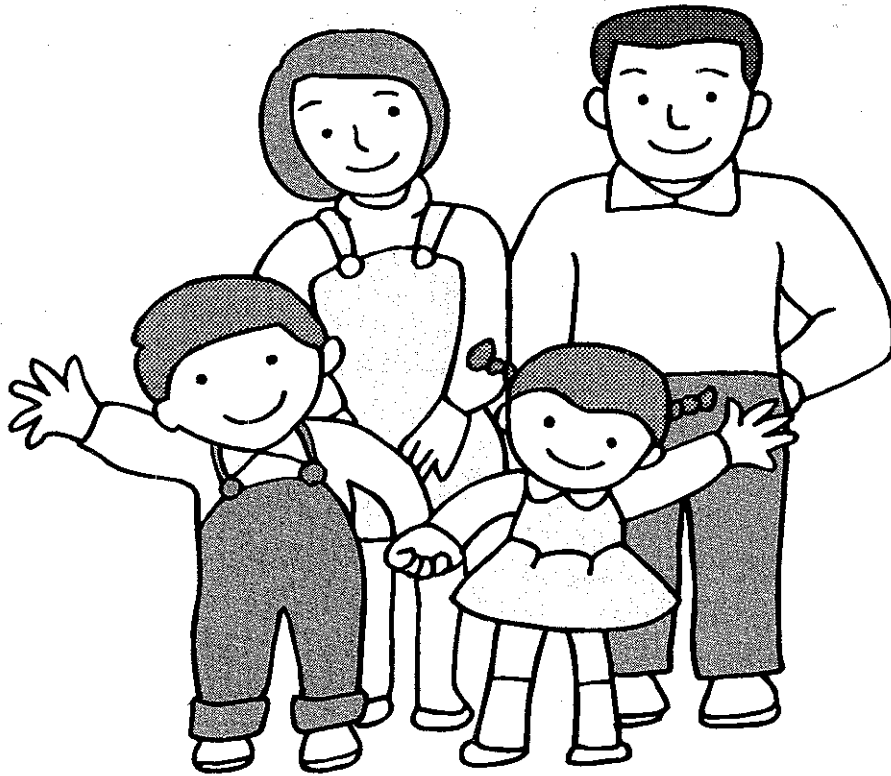


# てんかんはどんな病気？

---

てんかんを正しく理解しましょう



**鳥取県立精神保健福祉センター**

## はじめに

てんかんは、「てんかん発作」が主症状として繰り返される病気ですが、発作が起きること以外は他の人とは何ら変わりはありません。てんかんで治療を受けている人は、人口の約1パーセント（我が国では約100万人）と、決してめずらしい病気ではありません。しかし、一般の人には、病気や治療について、十分に知られていません。

多くの人がてんかんについて正しい知識と理解を持つことは、治療の大きな助けになります。このパンフレットは、てんかんに対して、より正しい知識を持っていただきたいと考え作られたものです。

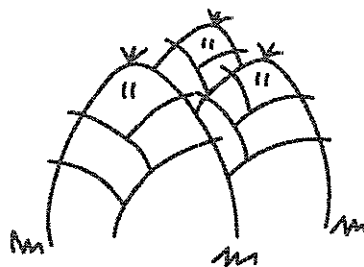
### てんかんはどんな病気でしょう

てんかんは、脳細胞が一時的に必要以上に刺激されるために、さまざまな発作を短時間起こす病気です。主症状としては、こうした「てんかん発作」が繰り返し見られます。

てんかんは遺伝病ではありません。てんかんの原因はさまざまで、脳に器質的な変化の見られない「特発性てんかん」と、何らかの脳内の原因（外傷、脳腫瘍、先天性奇形など）が認められる「症候性てんかん」に分類されます。

### 発作の症状

発作の症状は、脳のどの部分に異常が起こるかによって異なります。発作を起こして転倒する、意識がない状態でうろうろする、口をもぐもぐさせるなど、さまざまです。なかには、意識が数時間なくなるだけで、周囲の人からはほとんど気づかれないものもあります。また、しびれ、熱っぽさ、変な臭いがするなど、感覚の異常を起こすものもあります。



## どのような検査が行われるでしょう

てんかんの正しい診断には、いろいろな検査が必要となります。検査では、

- ①てんかん発作に間違いないか
- ②正しい発作型を知る
- ③基礎疾患や合併症はあるか      などを調べます。

### ◆脳波検査

脳細胞の活動によって生じる電気的な変化を記録するものです。脳波の所見によって、てんかんの診断を行うことができます。

また、脳波検査は、診断の時だけでなく、その後も年に1～2回、定期的に行います。

### ◆脳波画像検査

CT(コンピュータX線断層撮影)やMRI(磁気共鳴画像)などで、脳の状態を画像で見ることにより、他の疾患がないかなどの検査が行われます。

PET(ポジトロンCT)やSPECT(シングルホトンCT)は、脳局所のエネルギー代謝や血流をもとに脳の機能的状態を検査するものです。

## 発作の前ぶれ

てんかん発作が起こる「前ぶれ」として、次のような自覚症状が現れる場合があります。

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| ○発作の起こるほんの少し前(前兆)に | ○発作の起こる数日前から |
| ・顔や手足の軽いけいれん       | ・気分や感情の変化    |
| ・感覚や味覚の異常          | ・頭重感、頭痛など    |
| ・胃の不快感や吐き気など       |              |

「前ぶれ」は、すべての人にみられるものではなく、人によって違います。本人や家族が「前ぶれ」に気づき、本人と相談することは、日常生活に役立ちます。

人によっては、光や音などの感覚的刺激によって発作が誘発されることがあります。

## 治療はどのようなものがあるでしょう

てんかん発作の治療は、抗てんかん薬による薬物療法が中心です。抗てんかん薬を用いることで、発作の約8割を抑制できるとされています。完全に抑制されなくても、ある程度発作が軽くなり、日常生活を送りやすくなります。症状によっては脳外科手術が行われることもあります。

### ◆薬物療法

現在日本では、20数種類の抗てんかん薬が使われています。

服薬は

- ①その人の発作型に合った薬を
- ②適切な量（1種類、もしくは2～3種類の併用）で
- ③規則的に
- ④根気よく続けて
- ⑤定期的な診察と検査を受けることが大切です。

※薬の量は、診察時の血中濃度検査（採血して、血液中の薬の濃度を測定する）が参考にされます。

その他、気をつけることとして

- 薬は、医師に指示されたものを、指示された回数で飲むことが大切です。てんかんの治療は長い年月が必要とされます。発作が止まっても服薬を勝手にやめてはいけません。
- 薬の副作用で気になることは、主治医と相談をしましょう。自分の飲んでいる薬についてくわしく知り、気になることを医師へ伝えることが大切です。

### ◆脳外科手術

薬物療法だけでは発作を止めることができず、発作が日常生活上で強い障害になっている人で、手術適応のある人に対して行われます。

## 日常生活はどのようにすればよいでしょう

日常生活上で、てんかんによる制約をもつ必要はありません。どのようなときに発作が起こりやすいかなど、その人の症状に合わせた配慮が必要です。

睡眠不足や過労、過度の飲酒にならないようにするなど、規則正しい生活を送ることも大切です。過度の緊張は必ずしも悪いものではなく、ひきこもる必要はありません。

発作でケガをする可能性として

- ①風呂場で意識を失っておぼれる
- ②やけど
- ③転倒によるケガ、などがあります。

発作には個人差があるので、どのようなときに、どこにケガをしやすいかなどを、本人、家族で確認し、相談することが大切です。神経質に行動を制限しすぎると、かえって精神的ストレスになり逆効果なこともあります。

## 就労について

てんかんにこだわらず、個人の性格や能力にあった職業を考えることが大切です。ただし、高所での作業など、意識を失ってケガをする危険性のある仕事は避ける配慮が必要です。また、過労や睡眠不足にならないように体調に気をつけるようにしましょう。

## 結婚・出産について

てんかんの治療を受けながら、多くの人が結婚、出産されています。妊娠中の服薬に不安を抱く人も少なくありませんが、勝手な判断で服薬を中断すると、発作が増加し母体や胎児に影響することがあります。

妊娠中も服薬は必要です。結婚、出産を恐れず、主治医とよく相談しましょう。

## 発作が起きたときの救急処置について

- ◆まず、冷静に対応しましょう。  
騒いだり、体を無理にさすったり、口にものを押し込まない
- ◆あわてて救急車を呼ばないでください。  
なお、次のような場合は、病院を受診しましょう。
  - ①意識が戻らないうちに次の発作が起こる
  - ②発作が10分以上続く
- ◆小さい発作は、見守るだけで何もする必要はありません。
- ◆大きい発作は、安静にして、安全な場所で様子を見守りましょう。
  - ・頭の下に柔らかいものをあてる
  - ・顔を横に向ける
  - ・ベルトやネクタイなどをゆるめる
- ◆発作が終わり意識が回復するまで、そばについて見守りましょう。
- ◆返事するなど意識が回復したように見えても、もうろう状態で十分に戻っていないことがあります。

## てんかんについての全国的な集まりはありますか

### 波の会(正式名称/社団法人日本てんかん協会)

てんかんを持つ人々とその家族のための福祉団体です。機関誌「波」を発行するとともに、てんかんについての正しい知識を広め、てんかんを持つ人々とその家族に生活や医療・教育などのアドバイスを行っています。各都道府県単位の支部があり、活動しています。

#### ○社団法人日本てんかん協会

東京都新宿区西早稲田2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル5F

☎(03)3202-5661・FAX(03)3202-7235

#### ○社団法人日本てんかん協会鳥取県支部

連絡先 米子市富益町4660番

電話(0859)28-8470

※保健所、精神保健福祉センターでは、精神保健福祉相談を受けつけております。お気軽にご相談ください。

発行 / 編集  
平成11年2月  
鳥取県立精神保健福祉センター  
☎680-0901 鳥取市江津318-1  
☎(0857)21-3031・FAX(0857)21-3034